

## 2 研究の実際 &gt; (2) 「強み」に関する活動プログラム

## オ 「強み」に関する活動プログラムの実践 授業の考察 (A 中学校 第 3 学年 1 時目)

## ◆本時の考察の視点

本時のねらい『強み』に着目した交流活動を通して、自分や友達の『強み』を知ることができるようにする」を達成することができたかを、振り返りシートの結果と記述から考察します。考察の視点は、以下のとおりです。

なお、ワークシートの記述や授業中の様子等も参考にしています。

## 【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問で、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたかを考察します。

## 【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができましたか」の質問で、自分や友達の「強み」を知るために自他の「強み」を伝え合うことができたかを考察します。

## 【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問で、自分の「強み」を知ることができたかを考察します。

## 【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問で、友達の「強み」を知ることができたかを考察します。

## ◆本時の考察（「振り返りシート」の結果と記述から）

## 【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は83.9%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は12.9%でした（図1）。また、生徒の振り返りシートには、『自分Webbing』の活動が楽しかった」「自分の『強み』についてしっかりと考えることができた」という記述が多く見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は「自分Webbing」の交流活動等に進んで参加し、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたと考えます。一方、「あまりできなかった」と回答した生徒の割合は3.2%でした（図1）。生徒の振り返りシートには意欲に関する記述は見られませんでした。ワークシートには、グループの友達から多くの「強み」が書かれていました。また、友達の「強み」を伝える活動では、友達の「自分Webbing」を見て、友達の「強み」だと思えることを書くことができていました。今後も、このような生徒が学習に進んで参加できるように、グルーピングや個別の言葉掛け等の配慮が必要であると考えます。

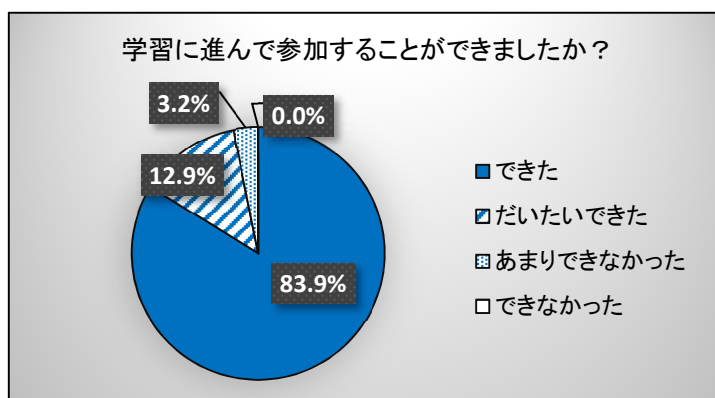


図1 学習に進んで参加することができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

## 【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は90.3%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は6.5%でした（図2）。また、生徒の振り返りシートには、「自分や友達の『強み』を知ることができた」「自分の『強み』を伝えることができた」という記述が多く見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は「自分Webbing」の交流活動等を通して、自分や友達の「強み」を知るために自他の「強み」を伝え合うことができたと考えます。一方、「あまりできなかった」と回答した生徒の割合は3.2%でした（図2）。生徒の振り返りシートに伝え合いに関する記述は見られませんでした。しかし、「強み」を伝え合う活動では、グループの友達と協力して発表したり、友達の発表を頷きながら聴いたりする姿が見られました。今後も、このような生徒が交流活動で自分の考えや気持ちをスムーズに伝え合うことができるように、グルーピングや個別の言葉掛け等の配慮が必要であると考えます。

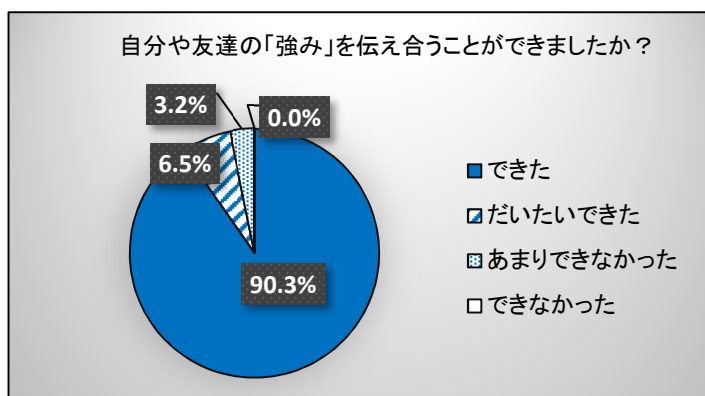


図2 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

## 【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は71.0%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は25.8%でした（図3）。また、生徒の振り返りシートには、「自分の『強み』を知ることができた」「今まで自分の『強み』が分からなかったが、今日の授業で分かった」という記述が多く見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は「自分Webbing」の交流活動等を通して、自分の「強み」を知ることができたと考えます。一方、「あまりできなかった」と回答した生徒の割合は3.2%でした（図3）。生徒の振り返りシートには自分の「強み」に関する記述は見られず、ワークシートの「自分Webbing」にも大きな広がりは見られませんでした。しかし、友達から書いてもらった「強み」を参考にして、自分の「強み」を書くことができていました。今後も、このような生徒の学習効果を高めるために、「自分Webbing」の例示の仕方を工夫したり、個別の言葉掛け等の配慮が必要であると考えます。

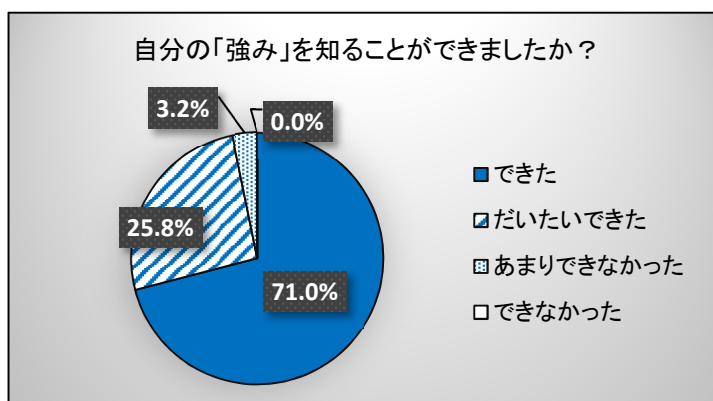


図3 自分の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

## 【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は87.1%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は12.9%でした（図4）。また、生徒の振り返りシートには、「友達の『強み』を書くことができた」「『強み』はみんなにあることが分かった」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒は「自分Webbing」等の交流活動を通して、友達の「強み」を知ることができたと考えます。

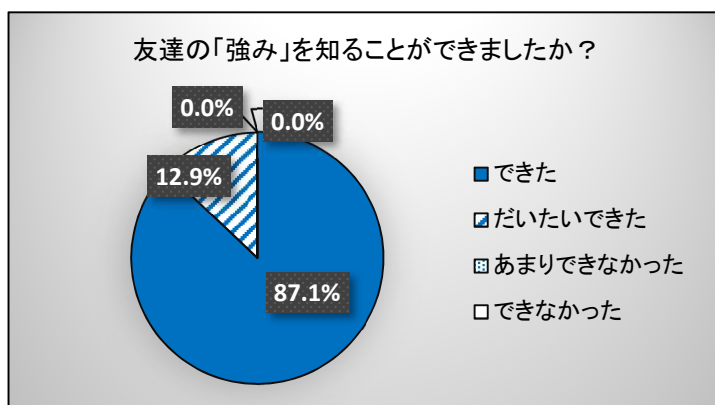


図4 友達の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

以上の結果より、1時目の授業において、ほとんどの生徒は意欲的に授業に参加し、自分や友達の「強み」を知り、それを伝え合うことができたことが分かりました。その中で、「自分の『強み』を知ることができましたか」と「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して「できた」と回答した生徒の割合は16ポイント以上の差がありました。中学生の発達の段階における自己肯定感の低さの影響もあり、友達の「強み」を見付けることの方が自分の「強み」を見付けることの方よりも容易だったことが分かりました。また、友達の個性や性格を肯定的に捉えることができ、素直に「強み」を伝えることができたと考えます。さらに、「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「あまりできなかった」と回答した生徒も、友達から書いてもらった「強み」を参考にして、自分の「強み」を書くことができていました。これらのことから、2時目以降も、直接的に自分の「強み」を見付けるのではなく、まず、友達の「強み」を見付けると同時に、友達から自分の「強み」を見付けてもらう活動を経て、それを基に自分の「強み」を見付けることにより、自己肯定感が低い生徒も安心して取り組むことができると考えます。

## 2 研究の実際 &gt; (2) 「強み」に関する活動プログラム

## オ 「強み」に関する活動プログラムの実践 授業の考察 (B中学校 第3学年 1時目)

## ◆本時の考察の視点

本時のねらい『強み』に着目した交流活動を通して、自分や友達の『強み』を知ることができるようにする」を達成することができたかを、振り返りシートの結果と記述から考察します。考察の視点は、以下のとおりです。

なお、ワークシートの記述や授業中の様子等も参考にしています。

## 【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問で、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたかを考察します。

## 【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができましたか」の質問で、自分や友達の「強み」を知るために自他の「強み」を伝え合うことができたかを考察します。

## 【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問で、自分の「強み」を知ることができたかを考察します。

## 【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問で、友達の「強み」を知ることができたかを考察します。

## ◆本時の考察 (「振り返りシート」の結果と記述から)

## 【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は86.1%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は13.9%でした (図1)。また、生徒の振り返りシートには、「活動が楽しかった」「『強み』探しがおもしろかった」「自分の『強み』についてしっかりと考えることができた」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒は「自分Webbing」の交流活動等に進んで参加し、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたと考えます。

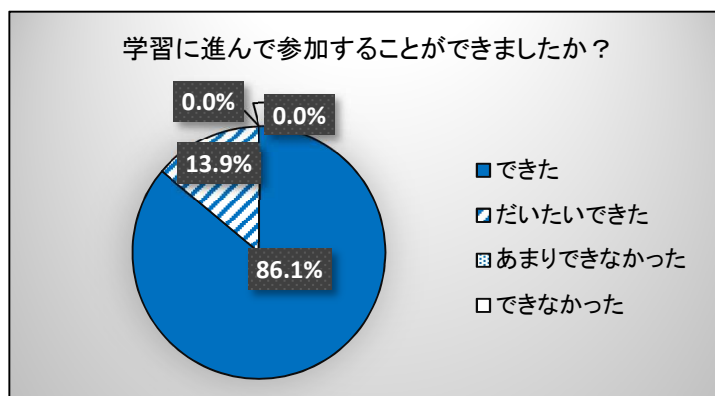


図1 学習に進んで参加することができたかについてのアンケート結果 (振り返りシートより)

## 【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は88.9%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は11.1%でした（図2）。また、生徒の振り返りシートには、「自分や友達のウェビングを見たり書いたりすることで、今まで気付かなかった『強み』に気付くことができた」「自分では分からないことでも、友達と伝え合うことで自分の『強み』が分かった」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒は「自分Webbing」の交流活動等を通して、自分や友達の「強み」を知るために自他の「強み」を伝え合うことができたと考えます。

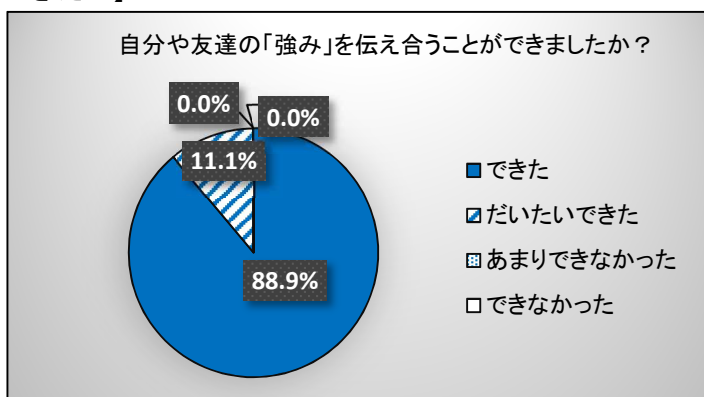


図2 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

## 【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は88.9%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は11.1%でした（図3）。また、生徒の振り返りシートには、「自分では気付かない『強み』を知ることができた」「改めて自分のことを知ることができて良かった」「今まで気付かなかった自分の『強み』を友達が教えてくれた」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒は「自分Webbing」の交流活動等を通して、自分の「強み」を知ることができたと考えます。

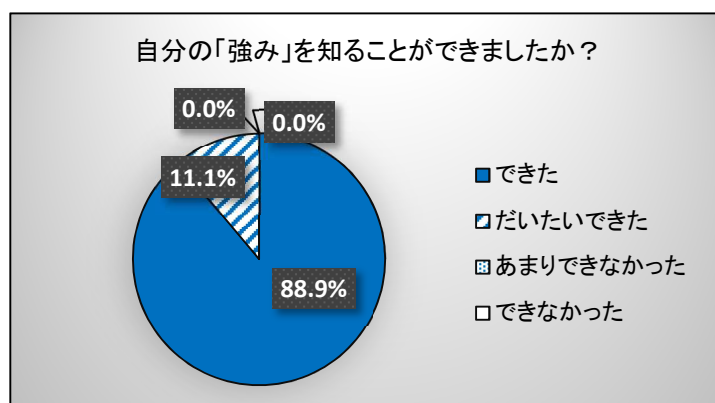


図3 自分の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）



## 【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は97.2%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は2.8%でした（図4）。また、生徒の振り返りシートには、「自分だけではなく、友達の『強み』を知ることができて良かった」「友達の『強み』が分かるとうなづかなくて良かった」「友達の『強み』を知ることができて、交流が深まって良かった」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒は「自分Webbing」の交流活動等を通して、友達の「強み」を知ることができたと考えます。

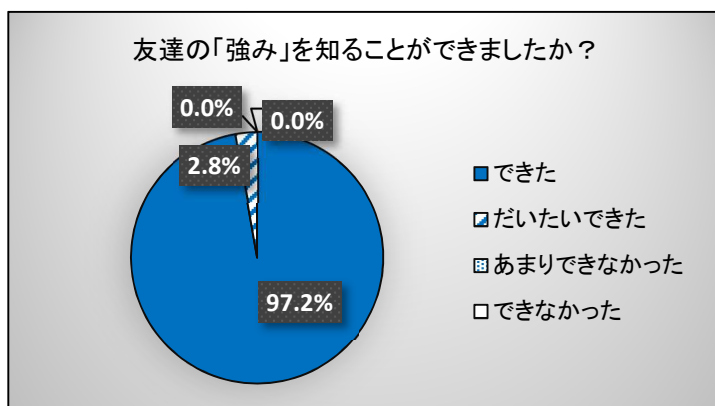


図4 友達の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

以上の結果より、1時目の授業において、生徒は意欲的に授業に参加し、自分や友達の「強み」を知り、それを伝え合うことができたことが分かりました。その中で、「自分の『強み』を知ることができましたか」「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は、前者が88.9%、後者が97.2%と、友達の「強み」を知ることができたと感じた生徒が8.3ポイント多いという結果となりました。その結果から、生徒は自分の「強み」よりも友達の「強み」を見付けやすいということが考えられます。その理由として、中学生の発達段階における自己肯定感の低さが影響していると思われます。しかし、友達の個性や性格を肯定的に受け止めて、素直に「強み」を伝えることはできたと考えます。これらのことから、2時目以降も、直接的に自分の「強み」を見付けるのではなく、まず、友達に「強み」を見付けてもらい、それを基に自分の「強み」を見付けることにより、自己肯定感が低い生徒も安心して取り組むことができると考えます。今後も、様々な教育活動と関連付けながら、自分や友達の「強み」を知ることができるような取組を継続していく必要があると考えます。